

令和6年度 刈谷市 共存・協働のまちづくり推進委員会

第2回まちづくり部会 記録

日時：令和7年1月21日（火）
午後2時00分～3時30分
場所：刈谷市役所 701 会議室

出席者

団体名・役職等	氏 名
刈谷市民ボランティア活動センター センター長	米田 正寛
刈谷市自治連合会	大野 裕史
刈谷市小中学校長会	細川 圭子
一般社団法人まちづくり支援センター 代表理事	塚本 裕章
文化工房かりや 代表	久保田富士子
一般公募	岡 由香
一般公募	水鳥 幸子
市民活動部長	宮田 孝裕

事務局

所 属	補 職 名	氏 名
市民活動部市民協働課	協働推進監兼市民協働課長	渡部 貴美子
市民活動部市民協働課	課長補佐兼協働推進係長	加藤 史彦
市民活動部市民協働課	主事	和田 佑佳
市民活動部市民協働課	主事	前川 和奏
NPO法人ボランタリーネイバーズ	副理事長・調査研究部長	三島 知斗世
NPO法人ボランタリーネイバーズ	理事・事務局長	遠山 涼子

1 開会・あいさつ

- ・定刻になり、市民協働課長補佐兼推進係長が開会を宣した後、資料確認を行った。（略）
- ・部会長あいさつの後、議事に移った。

1月19日、日進市での人にやさしいまちづくり地域セミナーに参加した。鍵となるのは、「人の力を借りること」。子どもや障がいのある方、当事者でなければ分からないこともある。どんな人でもまちの一員として住んでおり、声を聞き、力を借りることで良いまちづくりができると再確認する機会となった。

2 議題

(1) まちづくりコーディネーターの活動状況について

■【資料1—1、1—2】を提示し、まちづくりコーディネーター（以下、まちコ）について事務局が説明

(1) まちコの活動報告

- ①まちコ延べ44名が14件の事業で活動（関係先：自治会、市民協働課、長寿課など）。
- ・①築地自治会長との意見交換：現状、自治会活動業務が自治会長に集中している状況から、地区全体で協力して活動を進められる体制になることを目指す。12月28日に築地地区定例会にまちコが伺い問題提起に協力した。1、2月末に行われる定例会にも参加し、体制再編の話し合いを進める予定。（築地自治会）
- ・②刈谷いっぴく茶屋初陣：第1回まちコ交流会で出た企画をまちコくらぶにて具体化。（自主活動）
- ・③認知症サポーターステップアップ講座のファシリテーション。（長寿課）

- ・⑩燎〜kagaribi〜への出展：まちづくり推進課主催のイベントにて、まちコがトークイベントを実施。（自主活動）
- ・⑪かりや夢ファンド補助金公開審査会：審議時間にて申請団体及び来場者との交流を実施。（自主活動）

（２）まちコ交流会

- ・【第２回】１１月４日（月・祝）１３時３０分～ 会場：刈谷市民ボランティア活動センター 参加者１９人
- ・まちコ有志により運営し、まちコの活動事例紹介、参加者の関心のあるまちづくりについて知り合いつながるワーク等の開催。
- ・第１回目で話し合ったテーマに関する進捗報告も行った。

（３）つなぎの学び舎・リカレント まちづくりステップアップ講座

- ・まちコ養成講座「つなぎの学び舎」は、昨年度より１年の受講で修了できるように再編し、隔年にて開催している。今年度は養成講座がない年にあたり、ステップアップ講座を年間６回開催。内、４回が終了した。
- ・学び舎修了生やまちコを含むまちづくり活動実践者を対象とした現場の実践力を高める目的の講座である。
- ・【第４回】１２月１４日（土）会議のデザイン、場づくりの準備を学んだ。参加１０名。うち２名は学生。来年度のつなぎの学び舎（来年度開催）受講の意向を示している。

■質問・意見交換

【まちコの活動実績】

- 委員：「刈谷いっばく茶屋初陣」は、第１回まちコ交流会をきっかけにうまれたイベント。企画書を作り、自分たちで実行する達成感が得られた。大野委員のいる刈谷西部地区で行ったので、地域の協力もスムーズに得られた。
- 委員：「お宝さがしウォーキング」のお宝ポイントの一つとしてやってもらった。亀城公園コネクトームにて、お茶を飲みながら古い刈谷の街並みを展示した。１００名弱が参加。うち３分の１が立ち寄ってくれた。元々の趣旨もあり、親子、孫連れの参加がほとんどである。
- 委員：小さな子どもがお茶をいただけてよかった。発案者のねらいに沿った内容になった。
- 委員：地域の参加者だけでなく、一般客も呈茶を楽しむ催しとなった。
- 委員：お宝さがしとは？
- 委員：刈谷西部地区に多くある古い建物や、自分の好きなものを探してくる。新しい建物も含め、２０か所をめぐるラリー。ゲームは社協の協力を得て、まちコも手伝ってもらっている。刈谷西部地区公民館まつりのサブイベントとして定着してきた。
- 委員：認知症サポーターステップアップ事業を２人で担当した。認知症に携わる方を対象に、「自分たちにできること」をテーマにグループワークを実施。同じような悩みを抱える方が多く、いろいろ話を共有できた。役立つ情報を知る機会にもなった。

【まちコ交流会】

- 委員：まちコだけでなく、大学生の参加もあった。活動内容の共有や、地域の共通の話題で情報交換をすることができた。まちづくりイベントをきっかけに刈谷の学生団体が参加してくれたのは嬉しい。
- 事務局：知立の学生団体からも参加があり、つなぎの学び舎への参加意向を示してくれた。また、まちコ交流会で「茶道をしている」といったおしゃべりから、いっばく茶屋への参加につながった。
- 部会長：つながりから参加が広がるのはよい。市外の学生でもまちコ登録は可能か。
- 事務局：在住、在学、在勤、在活を条件としているので、可能である。

（２）共存・協働による地域活動の活性化に向けた検討

■【資料２】を提示し、協議事項について事務局が説明

(資料 2/共存・協働による地域活動の活性化に向けた検討)

(ヒアリングの概要/参考：令和 5 年度第 3 回推進委員会資料)

- ・昨年度に引き続き、「共存・協働によって、各自治会等で取組まれるとよいこと」「課題が具体化されている地域をモデルにしてその取組を考えることを本部会における協議の方針とする。
- ・昨年度までの元気な地域応援交付金や、まちコの派遣活動等で課題解決の方策検討に取り組む 5 地区の実践から、ヒアリングを通じてモデルとなる「共存・協働のまちづくり」のテーマを抽出する。今年度はまず、そのヒアリングを実施している。
- ・部会での協議の後、次年度以降はモデル地区を選定し、まちコによる伴走支援も含めた後方支援に取り組む。その振り返りを経て、次の段階では取組のレベルアップと他地区への展開を図る。
- ・長期的に少しずつ進める。また、主体は地域であり、地域がやりたい、真似したい取組をサポートする方針。
- ・来年度自治会長へ情報提供する。東刈谷地区、恩田 4 組の事例などを紹介し、できれば、ヒアリング担当のまちコに伴走支援に携わっていただきたいと考える。

●小山地区恩田 4 組ヒアリングの結果報告「組単位の LINE 使用で、地域の情報伝達を円滑に」

- ・恩田 4 組を対象に、取り組みのプロセスに着目してヒアリングを行った。
- ・東刈谷地区ヒアリングにより抽出したテーマ 1～3 に続き、「テーマ 4」とした。
- ・共存・協働により取組まれるとよい点にマーカーを引いた
- ・恩田 4 組では、組単位で公式 LINE を使用し、回覧板の内容を共有している。運用開始から 1 年半経過した現在で電子回覧板率は 93%となった。

(ポイント 1) 紙媒体と並行してさらっと始めた

(ポイント 2) 電子回覧板の作成・配信は短時間で可能

(ポイント 3) 顔を合わせる機会づくりも考慮する

(ポイント 4) 組単位 LINE の汎用性～引継ぎ・役割の分担・地域サイズが鍵～

(組長のコメント) 若い世代の自治会運営参加に向けた呼びかけについて

- ・共存・協働で取組めそうなことや他地区へ展開できる点、取組のアイディアなどご意見いただきたい。

■質問・意見交換

【地域での新しい取組を立ち上げ】

部会長：普通は、自治会長さんや色々な人に話をしている内に、反対意見が出て来たりするものだが、さらっと始めている。

委員：一斉に電子版に変えたわけではなく、1～2 年かけて進めている。両方欲しい人が 1 年程経過すると、紙はいらないなと感じるという感じで浸透した。比較的新住民が多いという土地柄もあるだろう。

【顔を合わせる機会づくり】

委員：電子化による隣人同士の顔を合わせる機会の減少への対策として「公園清掃を増やした」とある。組員の負担感はなかったか。例えば、毎月でも参加を強制しないなど。その工夫がわかると他地域で参考になる。

事務局：負担感について質問をしたが、特に問題なくやれている旨のお話だった。

委員：私の地域では年 2 回実施しているが、それに参加しない場合、お金をおさめるしくみになっている。

委員：ごみゼロ運動が年 2 回、神社の掃除が 2 回と計 5 回ある。欠席時のお金は定めていない。

委員：地域や河川等の清掃について、地区から学校へ依頼を受けるケースがあり、ボランティアとして子どもが一生懸命参加している。まつりへのボランティア参加もある。

委員：側溝掃除は地区で担う。未加入の方も側溝掃除には参加。重たいもの持とうか、と会話がうまれるよい場がある。年 2 回。公園は老人会が担っている。

部会長：顔合わせの機会は、その他にないか？

委 員：私の地域では、公民館のイベントが活発である。

部会長：子どもが地域に参加すると地域の雰囲気が変わるだろう。以前は側溝清掃を毎週行っていたが、下水道が整備され側溝にふたができるのと清掃がなくなり、2、3軒先の人の顔がわからなくなった。効率化や環境が整うと、まちのコミュニケーション機会がなくなることもある。一方、清掃でコミュニケーションをとろうとすると、参加者はいつも同じで欠席者に対して不満もあがりやすい。負担に感じないコミュニケーションの取り方があるとよい。例えば、自分の班は12世帯で半分が高齢者である。そこで、集会所で、食べ物を持ち寄って男性の飲み会をスタートした。7名が参加し、話をする中で家族のこと等がわかってくる。うまく進んでいきそうならば、他の班もしませんかと呼びかけられるとよい。が、地域事情もあるかもしれない。コミュニケーションのやり方については、役員が勝手に決めてしまわず、いろいろな人の声を聞きまとめていくとよい。

事務局：恩田4組について、ごみゼロ運動とは別に、えびの公園の清掃を行っているが、参加賞とお茶を全員に、ゴミ袋を世帯ごとに提供している他、「ボランティアなのでお時間のある時に気軽に参加してください」という感じの呼びかけが回覧に書かれている。なお、清掃活動の報告は感謝の言葉をメインとすることで、読んだ住民が良い気持ちで清掃の記憶を振り返り、今後の清掃にも前向きになれるような工夫がされている。

【世帯数】

部会長：128世帯で大きな単位でないこともうまく進んだ要因か。

委 員：小山地区は大きいが、そのうちの一つの組での対応である。地区全体で考えてバランスを考えると難しい。

部会長：新興住宅地で、組の単位ならば、似た境遇の人が多くやりやすそう。

【通数と予算】

委 員：LINEの内容は回覧板である。刈谷西部地区でも取り組みたいと思ったが、例えば回覧に電子上でも見られるQRコードを付けて回す。1年位経ったらHPにも整理する。2年位経ったら浸透するのでは。

委 員：学校PTAでLINEを使っている。ただ学校のPTAだと通数が多く有料になってしまう。また、LINEアドレスは共有されたくないという意識もある。

事務局：月200通までは無料。地区で取り組む今川地区は通数が多いので、月5,000通まで出せる有料版（5,500円/月）を活用すると聞いている。

委 員：組別にLINEアカウントを設けるといったような工夫で、無料で対応する方法が、小さな地区にとっては予算的によい。

【今後の部会の取り組み】

委 員：部会長の言われた隣近所の飲み会のように、スモールスタートで始めることがよい。

LINEのテーマも、まちコ交流会で話に出たことをすくっており、まちコの活動と部会での取組が連動して進んでいるのが素晴らしいと思う。ホップ・ステップ・ジャンプで、地区から希望があれば展開するよう後方支援をする考えも素晴らしい。

一方で、地域福祉計画の懇談会の対話から感じていることがある。地域福祉計画の説明があった際、地区の役員を務める立場の方から「現場サイドに話が来ていない」という声があがった。地域によって計画の理解度や役員と住民の意識の差などがあるが、やりたくてもできない歯がゆさで地域の役員の方が悩んでいるように感じた。そうした状況に対して、まちコの活躍機会を広げて、高齢化が進む中でまちづくりや互助、地域包括ケアなど皆で協力するまちづくりについて、地区との連携にさらに取り組んではどうか。

福祉や防災など行政の考えが地域にうまく伝わっていない点について共通認識を持てるように、或いは、行政の計画を聞いて問題意識を持っているが役員だけではできないと思っている地域をまちコがサポートできるとよい。学生もそれに関わるとよい。

今回のテーマでは地区からの希望により動く想定だが、福祉領域などで計画だけが進められるのに地域が悩まを感じている状況に対しては、まちコが間に入って意思疎通を促すファシリテーションができるとうよい。そうした間に立つ人がいれば、共働きで忙しく地域活動に参加できないという人もマッチングして、皆で取り組んでいけるようになるのでは。

部会長：行政の大変さも理解するが、地域の現場の大変さにどう応えるかが重要。いきいきクラブも加入率が減り、どう取り組んだらよいか悩んでいる。市民と行政の間に立つ接着剤のような役割がないと反感が生まれる。

委員：まちコくらぶでは、活動するメンバーが頻繁に集まり、やりたいことに取り組んでいる。まちコはこんな活動してるよ、と地区以外の団体へもアピールしている。夢ファンド補助金公開審査会内のまちコくらぶ mini でも、マッチングを意識して意見交換をした。

部会長：若い人には声をかけることが重要で、若い人が活躍できるような機会を作っていくことが発展につながる。

委員：まちコの中で学校の先生をしている方が、地域と学生さんをつないでくれて参加が広がっている。地域活動も中高生ならイベントと一緒に、大学生なら会議から関わってもらえるのではないか。

部会長：地域学校協働活動推進員がコーディネーターとして、学校と地域をマッチングしている。地域の力を借りて先生の負担が減り、子どもたちも充実した中身のある教育を受けられる。このように、間に入る役割がいてうまくつなげることができるとうよい。まちコが自分のいる地区で活躍し、役割を担っていただけるとよい。学生がまちコになるなど、若い世代でまちづくりに関心がある人の将来が楽しみである。

部会長：今回のレポートに戻ると、地区によりカラーがある。120人程度の動きやすい単位で話をしたり、地区に合うことを展開していけるとよい。スマホを活用してポイント獲得するといったしかけでは、地域の方向土声をかけあって活用する動きもある。

3 今後の予定

■推進委員会

第2回 令和7年3月11日（火）14時00分～15時30分 刈谷市役所401、402会議室

以上